

小彼岸桜増殖技術マニュアル

[作業工程概要]

<1年目>

1. 挿し穂採取

- 運動公園北側道路沿いの小彼岸桜並木より1年目の芽を採取する。

2. 苗床準備

- 採取した新芽が生育できる苗床を準備する。

3. 挿し穂植え付け

- 鉢に挿し穂を固定する。

4. 苗床管理

- 日々の灌水がポイントとなる。
※ 苗床で桜が生育できる割合は、技術者で70%程度可能であるが、初心者は10~20%となるなど非常に難しく、デリケートである。

<2年目>

5. 露地畑へ移植

- 生育できた1年目苗を脚折菜園へ移植する。
※ 露地で生育できる割合は80%程度

6. 根巻作業

- 3年目に近づく苗の根に麻布を巻き出荷できるようにする。

<3年目>

7. 移植

- 公園等の移植先に植え付ける。

<4年目~>

8. 成木管理

- 樹形管理や毛虫対応の実施

令和3年5月13日

NPO 法人つるがしま里山サポートクラブ

橋本一郎

1. 挿し穂採取

[準備する道具・工具]

剪定はさみ、鋸、ノミ、小刀、融合剤、ハケ、脚立、バケツ、水、一輪車

- 桜の2年目の枝から今年発芽した新芽（枝）を採取するため、該当する枝を鋸で切り出す。（1枝から数本の新芽を取れる枝を選定し切り出す。）



新芽枝

- 切り出した枝は直ちに水の張ってあるバケツに入れる。



- 桜切り口の補修作業

- ・ 桜本体から切口が外に出ないようにノコギリで切る。
- ・ 切口をノミ・小刀で平らに削る。（桜本体と滑らかになるようなめす。）
→数年後、桜の樹皮で切口が塞がれるようにする。
- ・ 融合剤を塗布する。（雑菌等が入り腐食しないようにするため。）



- 使用する新芽の長さは10～15cm程度（短すぎても長すぎても発育が悪い。）

2. 苗床準備

[準備する道具・工具]

鹿沼土（大玉、小玉、細粒）、赤玉（大、中、小）、腐葉土、汰温浅鉢（8号）
フルイ、舟、小シャベル

- 鹿沼土、腐葉土をフルイにかけ 1mm以下の微塵粉を除去する。（微塵粉は水はけが悪く根腐れとなるため）



- 鉢底に底網を置く。
- 鉢に入れる土の割合は以下の通り。



- 3層構造を乱さないようにしてジョウロで水をたっぷりかける。



3. 挿し穂植え付け

- 挿し穂の剪定（切り出した桜枝から準備した鉢に植え付けられるよう挿し穂を整える。）
 - ・ 新芽のついている2年目枝を逆T字型にカット
 - ・ 切り口に剥離が出ないようにカット（切れる剪定ハサミ使用）
 - ・ 長さは3～5 cm程度
 - ・ 2年目枝の先頭側は垂直に、樹側は斜めにカット
 - ・ 葉は先端の3枚を残し、それ以外は葉柄でカット



- 選定した挿し穂は水に30分～1時間程度つけておく。



- 植え付け
 - ・ 挿し穂の両端に発根剤（ハイフレッシュ又はルートン）を団子状に塗布



- ・ 鉢の苗床に深さ2 cm程度の掘り込みを作る。
- ・ 掘り込みに挿し穂を押し込み、窪みに鹿沼土（細粒）を補充し、しっかり固定
- ・ 1鉢に3・4・3列にして計10本を植え付ける。



- ・ 灌水する。

○ 苗床カバー

- ・ 苗床の温度、湿度を適正に保つため、及び防風としてビニール袋をかける。
- ・ アルミ線（3mm）2本をカバーの支柱として十文字の円形にセットする。
- ・ 透明なビニール袋を上からかけ鉢側面で縛り固定する。
- ・ 灌水、温度、湿度管理用に袋の上部を10～15 cm切り開く。



4. 苗床管理

- 植え付けた挿し穂と鹿沼土の接触面に隙間が生じると生育ができなくなるので苗床の移動は NG である。特に鉢を車等で運搬する際の振動により隙間が生じやすいので家に持ち込んだ時はしっかりと挿し穂を抑え、固定すること。
- 灌水時、水圧で苗が動かないよう注意する。
- 発根は斜め切した樹側より起こり、垂直にカットした先端側には生じない。
- 家での管理方法
 - ・ 鉢設置場所は風当たりの強い場所を避ける。
 - ・ 持ち込み後、毎日灌水する。
 - ・ 湿度 70~80%、苗床気温 25 度前後がベストであるので必要に応じ気温が 35 度以上になる時は遮光ネットを利用する。
 - ・ 鹿沼土が全般的に白くなったら必ず腰水灌水する。(鉢を上部まで水の張ったバケツ等に漬ける。)
- 発根が始まると新芽が伸長する。(8 月中旬ごろまでに新芽が出なければその挿し穂は失敗である。)
- 葉数が 4 枚以上になった時、化成肥料 (8:8:8) を 1 本に 1 粒月 1 回施肥する。
- 秋になると枝葉の成長が止まるので施肥はしない。紅葉、落葉、越冬となる。灌水のやりすぎ、乾きすぎに注意する。
- 冬の低温、凍結、霜害に注意。
 - ・ 特に凍結すると根が切断されるので、冬 (1~2 月) 前に、もみ殻を別途配布するので鉢に凍結防止用に 2 cm 程敷き詰める。